編輯室内外

「防諜未だ死せず」とは映画の題目に止まず、我敵國は秘密戰の魔手を銃後を護る國民の上に伸ばし、國内を攪亂して最後の勝利を得ようとかゝつて來るのは當然の事で緒戰の大戰果に醉ふに於て心ゆるむ時に特に注意しなければならぬ、諜報防衛の爲めに一段の緊張を要するは多言を要せずして明かである、國民防諜の六訓はどんなものか、一、日本人たる自覺、二、國民の一人々々が防諜戰士たれ、三、言葉を愼しみ、機密を洩すな、四、流言に迷ふな、デマに踊るな、五、不平不滿は利敵行爲、六、職場を嚴守せよとわれわれの日常生活に於て何をするにも防諜の精神に戻つてはならない。

○

健民强兵は結構なことである、夫れで結核の撲滅、無醫村の解消を目ざし六億圓を投じて日本醫療團が誕生した、大に喜ぶべきことである、此設備と働きとに依つて結核患者が撲滅せられ、無醫村が解消せらるるは火を睹るよりも明かである、吾人は寧ろ其のおそかりしを恨とする、併しながら世に害毒の恐るべき花柳病、癩病の撲滅策は如何、之れ決して等閑に付してはならぬことである。

○

五十年來の恨事として今に消解し得ざるは我が同胞の支那語學習に對する熱意と其の不勉强であると嘆ずるものがある、至極尤なことである、支那語滿洲語以て學ぶべきである、語を學ばずして其の國に到るも何の效がある、先覺の英靈昭々として上に在り我等の今日あるは實に其遺烈の賜である、せめて語學の一門だけでも先覺の英靈に滿足を願ふだけの修得は心掛くべきである、報本反始は春秋二季の祭典に限るものではないと言及す、空論をさけて實行に努むゝ之れ今日の急務。

○

今日の日本のもつ構想は雄大であり大規模でなければならぬ、この觀點からしても三府四十三縣の行政區劃を從來通りにして置くことは時代に照應して細分に過ぎはしないかといふ氣がするのである。宜しく國土計畫の一端として新しい編制替若くは統合が必要となつて來たのではあるまいか。と新居格氏は論じて居る。寔にその通りである、今日の交通の狀態、經濟の交流等より見て現今の行政區劃は狹少である、既に多くの方面では統合と集約とが行はれて居るのに獨り行政區劃だけが舊來の儘であつてはならない、事は斷の一字である。

○

藤田東湖先生を追慕して同志が東湖會を創設し大に水戸學の鼓吹に努むることとなつたと聞く、寔に同慶の至りである、其の發起人の中に高位高官にあるが爲め又有數の職に在るが爲めに選ばれたるものあるを見る、東湖先生地下に於て顰蹙せられずば幸甚。

○

印度をして印度人の印度たらしめよとはガンヂーの絶叫する所である、今や其の實行期に突入せんとす、英國何ぞ頑迷なる、目醒むべき秋は今日である、何時までもはかなき夢に夢見るぞや、ヒリンピンは既にヒリツピン人のヒリツピンとなる、印度も印度人の印度たらしめよ、濠洲また濠洲人の濠洲たらしむべきか、遠くハワイを眺めて如何に感ずるか。(洸)

定價一部 一ヶ年分 金五十錢 六圓

東京市麴町區霞關一丁目内務省内
發行所 社團法人 道路改良會
電話銀座(57)〇四二七
振替貯金口座番號一九〇六六

東京市赤坂區氷川町一七
發行者 平井良成
編輯者

東京市小石川區諏訪町五六
印刷所(東東三一〇)株式會社 常磐印刷所
印刷者 奈良直一

日本出版文化協會會員番號二〇〇五四